

## たつこ像

田沢湖の空色の水面に佇む金色の若い女性の像は湖岸を見渡しています。この女性が地域の有名な民話の主人公、たつこです。

伝説によると、たつこは類まれな美しさを持った若い女性で、その美貌と若さを永遠に保つことを切望していました。たつこは毎晩、慈悲の神である大蔵観音に祈りました。幾夜も祈り続けた後、観音はたつこに近くの水を飲めば願いが叶うと告げました。不幸なことに、喉が渇いてたまらず泉が枯れるまで水を飲んだたつこの姿は龍に変わりました。龍となったたつこは、湖の守り主として永遠に深い湖底をさまようことになってしまいました。

この伝説をもとに造られた光り輝く像は、ある意味で永久に若々しい美しさを保つというたつこの願いを叶えています。この像は有名な画家・彫刻家の舟越保武（1912–2002）によって制作され、1968年5月12日に初めて披露されました。

湖の西岸のすぐそばにある高さ 2.3 メートルのこの像は、黒い石の土台の上に立っています。制作者は、沐浴から立ち上がっているかのような、少し恥ずかしそうに期待を込めて上方を見上げるヒロインの姿を捉えました。

青銅で作られたこの像は、酸性度の高い田沢湖の水から保護するため、完全に金箔で覆われています。